

# 大浦川再生型ツーリズムプロジェクト

実施団体：株式会社 わんさか



## 地域の特徴と活動背景

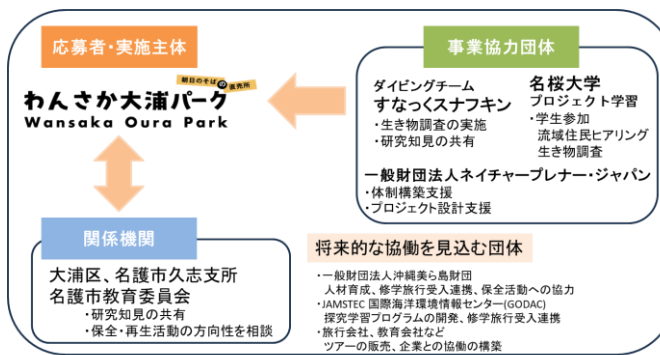
### 【地域の特徴】

- かつて薪や農業資材として生活を支えたマングローブ林は、生活様式の変化により直接的な利用が途絶えかけたが、1995年に名護市の天然記念物に指定されたことを機に自然的・教育的価値が再評価され、現在はツーリズム資源として活用されている。

### 【地域課題】

- 人口は減少傾向が続いており、高齢化率が40.5%（令和5年）に達するなど過疎化と高齢化の進行。
- 過疎化によりコミュニティの力が弱まったことによる、自然や風景を守り活用する力の衰退。

## モデル事業の実施体制



沖縄県名護市  
大浦区



わんさか大浦パーク



大浦川流域

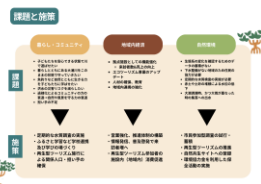
## R7年度モデル事業における取組内容および成果

### 保全・再生プロジェクトの骨子策定

- 流域住民らへのヒアリング及び意見交換から、観光を自然や地域の「再生のエンジン」として位置付ける方向性を共有。
- 課題と施策、アクションプランなどを盛り込んだ保全・再生プロジェクトの骨子を作成。

#### 【骨子の項目】

- ①背景と目的
- ②プロジェクトのビジョン
- ③課題と施策
- ④アクションプラン



ページイメージ

### 市民参加型調査の試行

- 地域の子どもたちと大浦川での生物調査を実施（2回）。
- 科学的な知見を蓄積していくための基盤として、マングローブ林内への定点カメラの設置、データベース用の生物リストの作成、大浦川の水質調査を実施。



地元の子どもたちが参加

出典：国土地理院2006  
4箇所で水質調査を実施

### 再生型ツーリズムの確立

- 従来のアクティビティ主導型の自然体験ツアーをコンセプトごとに内容を刷新。
- 従来の「見る・楽しむ」観光ではなく、感じる → 考える → 関わるの体験プロセスを導入。



コンセプトイメージ

### モニターツアーの実施

- 大浦川再生型ツーリズムプロジェクトのフィールドツアーを実施（参加者20名）
- ツアーそのものをモニタリングの機会とする仕組みが高い評価を得られ、企業・団体から協働の提案を得た。
- 「感じる・考える・関わる」を共通コンセプトとし、ターゲット別のツアーを展開、最適化していく。



モニターツアーの様子

## 今後の課題および取組方針

- ガイドの役割の拡大といった人材育成の推進や拠点施設の「ビジターセンター化」による教育面と情報発信の強化
- 「探求学習」を軸とした修学旅行、一般向けの貢献実感型ツアーの強化による再生のエンジンとなる収益基盤の確立
- OECD登録や協働プログラム（リバークリーン、生物調査等）による保全・活用基盤の強化と多様な主体との「共創」の場づくり